

試験予想

## 2級編

商業簿記

第1問 仕訳問題

- 第2問
1. 伝票
  2. 特殊仕訳帳
  3. 個別論点

- 第3問
1. 本支店会計
  2. 損益勘定・繰越利益剰余金勘定
  3. 財務諸表

第1問は伝統的に仕訳問題です。ここでは、特殊商品売買、固定資産、社債、有価証券等は頻出論点になりますので、もう一度、テキストの例題、宿題プリント等をしっかり確認しておきましょう。

特に社債、剰余金の配当、繰延資産といった会社法の施行により処理内容が変更になった論点はしっかりチェックしておきましょう。

第2問は、第1予想として伝票をあげました。

前回の合格率が低かったため、推定ではなくただ単に仕訳日計表を作成するという問題が予想されます。その場合は、確実に満点を取れるようにしましょう。

また、推定の場合は1つの計算ミスで連鎖的に間違えてしまうということがありますので、ケアレスミスしないように注意しましょう。

また、伝票問題で、102回に伝票の枚数を数えるという問題が出題されたことがあります。それ以来、伝票の枚数を数えるという問題は出題されたことがありませんから、試験までに102回の問題を解いておく必要があります。

第2予想として特殊仕訳帳の試算表作成をあげました。

前回は特殊仕訳帳の試算表作成でしたが、2回続けて出題されたことがありますので、しっかり対策を講じておきましょう。

対策として、従来の出題パターンである試算表作成をまずは練習しておきましょう。

また、普通仕訳帳に転記された金額を推定させるという問題も確認しておきましょう。対

策として118回を試験まで解いておきましょう。

その他には特殊仕訳帳への記入、それから特殊仕訳帳から総勘定元帳に転記するという問題を試験までに一度解いておくようにしましょう。対策としては、103回を一度解いておきましょう（今回は少し注意を要します）。

また、特殊仕訳帳の記入金額が空欄になっていて推定させる問題についてもしっかり練習しておきましょう。

対策としては、109回、111回はいずれも資料の特殊仕訳帳の記入金額が空欄になっていて推定させる問題になっておりますので、試験までに、109回、111回は一度解いておく必要があるでしょう。

また、特殊仕訳帳（帳簿）からの試算表作成は出題されておきませんので、そちらも十分対策を講じておくようにしましょう。

第3予想として、個別論点をあげました。第2問の出題といえば伝票もしくは特殊仕訳帳が主流ですが、過去に107回では固定資産、112回では有価証券と社債といった個別論点が出題されたことがあります。

固定資産、有価証券と社債、特殊商品売買などもう一度テキストを見直すなどして基礎・基本を確認しておきましょう。特に売買目的有価証券と満期保有目的債券の違いと共通点、また両者の評価方法、社債の発行側の処理方法をしっかりできるようにしておきましょう。

また、個別論点を解くカギは、きちんと仕訳ができるかどうかになります。ですから、もし個別論点が出題された場合は、問われている問題に対して、しっかり仕訳を書き出して解くようにしましょう。

第3予想として本支店会計をあげました。

本支店会計は、第3問では一番、出題率の高い論点になりますので、十分、対策を練っておく必要があるかと思えます。類題として105回、109回は抑えておく必要があるかと思えます。

本店より仕入勘定と支店へ売上勘定、本店勘定と支店勘定や未達取引の金額などを推定される問題などは試験まで必ず一度解いておきましょう。

また、商品評価損、棚卸減耗費が計上される問題が長い間出題されておきません。類題として、第98回は一度解いておくとういでしょう。

第2予想に、損益勘定・繰越利益剰余金勘定の作成をあげました。

第116回より、会社法の適用によって、未処分利益勘定・繰越利益勘定がなくなり、繰越利益剰余金勘定になりました。

そういった関係上、出題も108回からされておきません。今回、変更にもなっていて、そろそ

る出題される可能性があります。

ですから、必ず試験まで108回の類題を解いておく必要があります。

また、損益勘定・繰越利益剰余金勘定の作成の場合、株主総会のさいの剰余金の配当の仕訳をもう一度確認しておいてください。

損益勘定・繰越利益剰余金勘定作成の問題を解くとき、法人税等の税率が40%の場合、そして中間納付がある問題の場合も想定して問題を解くようにしておきましょう。

第3予想に財務諸表の作成をあげました。

財務諸表の作成では、118回に貸借対照表の作成が、122回に損益計算書の作成が出題されておりますので、今回は出題の可能性はそれほど高くないといえますが、最近ではそれほど間隔を空けずに出題ということもありますので、十分対策を講じておく必要があります。

対策としては、貸借対照表は118回を、損益計算書は110回、122回を試験までに一度解いておくようにしましょう。

#### 工業簿記

- 第4問
1. 個別原価計算
  2. 本社工場会計
  3. 費目別計算

- 第5問
1. 総合原価計算
  2. 標準原価計算
  3. 部門別個別原価計算

第4問は、第1予想として個別原価計算をあげました。個別原価計算は、103回、109回、117回に出題されております。また、118回でも個別原価計算の資料から製造原価報告書を作成させるという問題が出題されております。

118回同様、今までないパターンでの出題ということも考えられます。対策としては、今一度テキスト等で仕掛品勘定と製品勘定の前月繰越、次月繰越などの意味をしっかりと理解するようにしてください。また、103回、117回は試験までに一度解いておくことと、仕損の処理もテキストの例題レベルで十分ですので確認しておく必要があります。仕損の処理は、原価計算表の作成と仕訳の両方ともできるようにしておきましょう。

第2予想として、本社工場会計をあげました。本社工場会計は101回、112回、119回に出題されております。112回、119回ともにそれほどボリュームがなく比較的難易度の低い問題で

した。対策としては、試験までに一度 101 回の問題を解いておきましょう

第 3 予想として、費目別計算をあげました。材料費、労務費、経費の各原価要素から仕掛品勘定、製造間接費勘定、製品勘定への記入させるという問題が出題される可能性があります。こういった問題を解くためには、材料費、労務費、経費について直接費と間接費の分類がしっかりできるようにすること、そして、さらに間接材料費、間接労務費、間接経費のなかには具体的にこういったものがあるのか（例えば、耐用年数 1 年未満の消耗工具は間接材料費）もできるようにしておくとともに、予定配賦も含めた勘定の流れを理解することが大切です。対策としては、試験までに 113 回を一度解いておくようにしましょう。

第 5 問は、第 1 予想として、総合原価計算をあげました。

総合原価計算は、118 回に等級別総合原価計算、119 回に工程別総合原価計算、121 回に組別総合原価計算、122 回に総合原価計算、123 回に工程別原価計算とかなり高い確率で出題されておりますので、今回も十分対策を講じておく必要があります。仕損・減損を含めてしっかり確認しておきましょう。

また、その中でも等級別総合原価計算を確認しておきましょう。等級別総合原価計算は完成品原価を算出したあと、売上原価の計算及び損益計算書の作成という問題も考えられますので、勘定の流れを今一度確認しておきましょう。

また、当月製造費用の素材費、加工費の金額を各自で計算する場合があります。対策として 96 回を試験までに一度解いておくとういでしょう。

第 2 予想として、標準原価計算をあげました。

標準原価計算は 116 回、120 回に出題されておりますので、そろそろ出題される頃です。116 回、120 回ともに難易度の低い問題でしたので、十分対策を講じておく必要があります。

対策としては、103 回、107 回は試験まで一度解いておくようにし、原価標準、勘定記入（主にパーシャルプラン）、差異分析についてもう一度基礎からしっかり見直しをしておくようにしましょう。

また、107 回では、製造間接費の差異分析では、固定予算による差異分析が出題されましたので、試験までに一度 107 回を解いておく必要があるかと思えます。

第 3 予想として、部門別原価計算をあげました。

部門別原価計算は 108 回、111 回、116 回、123 回に出題されております。

123 回に出題されているため、今回予想にあげていないと人も多いかと思いますが、直近

では、いずれも直接配賦法が出題されております。したがって、直接配賦法を確認しつつ、相互配賦法もできるようにしておきましょう。

部門別原価計算は、配賦表、仕訳、勘定記入は連動していますので、3つをしっかりと関連付けて、部門の全体像を把握した上で、細かい枝の部分（相互配賦法や製造部門の予定配賦等）を学習するようにするとどんな問題にも対応できます。ですから、この問題は勘定連絡図のどこの部分が問われているかということ把握しながら問題を解くようにしましょう。

それから、108回に製造部門の差異分析が問われた問題が出題されました。したがって、製造間接費の差異分析（予算差異と操業度差異）もしっかりできるようにしておきましょう。また、そのさい公式法変動予算と固定予算の両方ともマスターしておきましょう。

最後に、上記に述べたのはあくまでも予想です。理想は満遍なくできることです。ですが、本試験まで限られた時間しかありません。よって、あまり学習が進んでいない方は上記の予想を参考にしながら本試験まで学習を進めてください。